



小池 勇議員

## パノラマ民営化の課題は何か

### 「町地域振興資金」の処理をどうするか

質問：パノラマ再建のために借り入れた「起債」の残金を、一括繰り上げ返済したいとの事だが懇談会での町民の反応は？

町長：反対意見は無く、十分理解されたと考える。

質問：パノラマについて、平成18年、議員全員による決議で「民営化」が要請されている。起債の繰り上げ償還で、民営化は近づくのか。

町長：まず問題の概

要を説明する。パノラマは昭和62年開設、平成4年増設されたが経営不振の結果、平成14年「上下分離方式」での再建が議会で承認された。パノラマの負債は50億円あったが、28億円分の資産を町が買

い取る形で肩代わりした。私の就任時（H21）の残はパノラマ分15億円、町分20億円であったが、順調に返済を続け、27年度末は、町分0円、パノラマ分3億円の予定で、パノラマ分も平成30年には完済できる。5年連続で増収増益を達成し、経営は順調に推移している。

質問：パノラマの具体的な経営状況は？

町長：平成26年度は、冬場15・7万人、夏場10万人、合計25・7万人の集客で、売り上げは、8・7億円であった。「損益分岐点」で

の売り上げはおよそ7億円と見込まれる。冬場で言えば、客数12万人あたりが「損益分岐点」と考える。

質問：順調で大いに結構だが、それでは民営化にあたって何が問題なのか。

町長：問題は、「町地域振興資金」をどう処理すべきかにある。「振興資金」は、過去に大きな累積赤字を抱えながらも近年経営改善が進んだことから、毎年7000万円の賃料を町に支払っている中で考えられたかなり複雑なスキームであり、帳簿上では町からの借金として計上されている。これを安易に解消しようとすれば、相当額の贈与税が生じる可能性がある。そうした事態を避けるべく、専門家を交えて検討しているが、非常に難しい。

質問：都市計画道路「富士見駅北通り線」の第1工区は10年間かけて平成21年に完成した。その後、第2工区「先線」は凍結されたが、小林町長は南側への延伸計画を表明した。先線建設のスケジュールは。

町長：先線工事の事業費は5億〜6億円。半分は国の補助。設計は今年度で完了する。検討委員会を設置して用地買収を行い、平成30年度に着工し、32年度には完成する予定だ。

建設課長：先線は今年度、地形測量と路線測量を委託発注した。来年3月までに概略設計を完成する。平成28年度から地元説明会に入り、概略を説明する。29年度は用地買収、物件の補償に入る。



川合弘人議員

## 北通り線の「先線」建設のスケジュールは

### 平成32年度の完成を目指す

質問：都市計画道路「富士見駅北通り線」の第1工区は10年間かけて平成21年に完成した。その後、第2工区「先線」は凍結されたが、小林町長は南側への延伸計画を表明した。先線建設のスケジュールは。

町長：先線工事の事業費は5億〜6億円。半分は国の補助。設計は今年度で完了する。検討委員会を設置して用地買収を行い、平成30年度に着工し、32年度には完成する予定だ。

建設課長：先線は今年度、地形測量と路線測量を委託発注した。来年3月までに概略設計を完成する。平成28年度から地元説明会に入り、概略を説明する。29年度は用地買収、物件の補償に入る。

## 諏訪東京理科大の公立化要請をどう受け止めるか

質問：諏訪東京理科大の公立化要請をどう受け止めるか。公立化によるリスクはないか。

町長：諏訪東京理科大は残してほしい。諏訪地方6市町村で温度差はあると思うが、茅野市がリーダーとなり、6市町村がスクラムを組んで進めてほしい。理科大があることで、高校を出たら東京に行くという流れを食い止める力になる。諏訪地方が、ものづくりのメッカであり、地域の産業を発展させるために、理科大は未来永劫、必須だと考える。茅野市はそう導いてほしい。

### 【その他の質問】

○富士見高生のアンテナショップ開設を商店街の活性化に生かせないか